

また明日「」の踏切で

田中菜奈

一場 出会い

フェードで照明が付く

舞台上にはベンチ、踏切、自販機が置いてある。

SE 波の音（ゆるやか）

深夜、病院から抜け出した「私」はいつものように古い踏切を目指す
病院内での息苦しさや悩みから開放されるこの唯一の場所。

「私」は夜の風を感じながら歩いていく。

「私」は古い踏切の前で立ち止まる

この踏切を越えることが怖い

目を閉じ波の音を聴く

SE 踏切

「あなた」が現れる。「私」を見つめ、一緒に波の音を聴く

「あなた」が話しかける

あなた ここよく来るよね。

私 え？

あなた 急に話しかけちゃってごめんなさい。

私 なんで私のこと？

あなた 私もここ来るんだけど、最近良く見かけるなって思っ

私 （戸惑いながらも親近感を感じる）そうなんですね。

あなた こんな夜遅くにどうしたの？

私 ここは、なんかあったかくて、わがままでいられるから。

海の方まで行ってみたいけどこの踏切いつも閉まってて、だからここに。

あなた （「私」の気持ちを汲み取って）海はね。邪魔になる光がないから、星が綺麗に見えるのよ。

私 え、そうなんですか。

あなた 良かったら一緒にどう？

私 いいんですか?! 行きたいです!!

SE 踏切 （「私」の気持ちを遮るように）

電車は通らないがなぜか踏切の音は聴こえる

「私」はこの音を合図に病院に帰っている。

私 あ、でももう帰らなきゃ…
あなた そう。じゃあまた明日、ここで待ち合わせ。それでも良い？
私 じゃあまた明日。ここの踏切で！

「私」は病院に向かい歩く

「あなた」は「私」を見送りながらはける

「私」がはける動きに合わせてブルー暗転

二場 二日目

照明が付く

SE 波の音（ゆるやか）（照明にあわせてFI）

「あなた」は「私」を待っている。

「私」は「あなた」を見つめる。

私 こんにちは！お待たせしちゃいました？
あなた 私も今来たところ。覚えていてくれて嬉しい。
私 そりゃ覚えてますよ！楽しみにしてたんですから。
あなた そう？丁度見頃なんじゃないかしら。
私 ホントですか！
あなた じゃあ行きましょうか。（手をとる）

私 （踏切を渡ることに躊躇する）でも、やっぱり、

あなた 大丈夫。（一人じゃない。）

二人 踏切越える 海を目指し歩く。

あなた そういえば、敬語じゃなくていいのよ。

私 （もっと仲良くなれると思って嬉しさから頷く）うん！
そういえばなまえ…

あなた ねえ、星がハッキリと見える条件って何だと思う？

私 うーん、空が晴れていること？

あなた それも大事だけど、一番は空気が澄んでいて、近くに灯りがないことなの。

私 へえー、そうなんだ。

あなた ほら上を見て。

私 わあ！すっごくきれい。見渡す限り全部星。

「あなた」は「私」が星に見惚れるのを見る

近くの自販機で飲み物を買ってくる。

SE 自販機 (ボタン) A

SE 自販機 (ボタン) B

SE 自販機 (缶が落ちる音)

あなた 本心に綺麗だよ。こんなにハッキリと星が見えるところは中々ないよ。

私 (カルピスを手に取り) ありがとう。

あなた カルピスで大丈夫？

私 うん！カルピス好き！でもカルピスソーダが一番好きかな？

あなた そうなのね。覚えておく。

「あなた」「私」海辺のベンチに座る。

SE 缶を開ける音 A

SE 缶を開ける音 B

私 あ、見て夏の大三角。ベガでしょ？あれがデネブあとはアルタイル。これだけは覚えてるんだよ。ね。

でも、今は3月だよ。

あなた 夏の大三角は夏だけじゃなくて、一年を通して観察できるのよ。だから今日も見えるの。

私 そうなんだ。

あなた 夏のとって言っているのにおかしな話よね。

私 あ、確かに！

2人 笑う

沈黙

私 ねえ、よくここに来るの？

あなた うん。よく来てた。なぜかわかる？

私 うーん。

あなた ここに来たら、この空一面に広がる星たちが私を救ってくれるような気がしたの。私には誰ひとりいなかった頼れる大人も友人も

私 私も。

私 私ね、実は病院から抜け出してここに來てるの。ここは本当にきれいだね

あなた そうね。本当にきれい。よくバレずに來れたね。

私 でしょ？見回りの時間帯も抜け道も全部把握してるから。特に今の時間帯が狙いめなの

あなた じゃあこれからもバレないようにしないとね。

SE 踏切

あなた そろそろ帰る時間ね。

私 もう少し見たかったな。

あなた じゃあまた明日この時間に。

私 ほんと？

あなた ええ。

私 また明日この踏切で。

「私」だけ踏切を越える

「私」がはける動きに合わせてブルー暗転

三場 3日目

フェードINで海

SE 波の音

上手側 「あなた」踏切で1人待つ

一人で二缶飲み物を買う。

SE 自販機 (ボタン) A

SE 自販機 (ボタン) B

SE 自販機 (缶が落ちる音)

SE 缶を開ける音 A

座って一人で飲む

SE 踏切

照明徐々に暗くする

照明付ける

「海に着いて二人で景色を見る

SE 波の音(激しめ)

私 昨日は約束守れなくてごめんなさい。

あなた いいのよ。あなたにもあなたの都合があるし。だけど、少し心配した。

私 ほんと？

あなた ほんと。

私 そうだったんだ。ごめん。

あなた いいのよ。

私 ねえ。あなたって私の知らないことをたくさん教えてくれるよね。

あなた そう？

私 うん。それに満月みたいに輝いていて優しくくて。すごく懂れる。

あなた そんなことない。全部作り物。

SE 私は作り物

私 つくりものなの？

色々な人からの圧力、視線、期待。その全部が私にまわりついてくる。私は求められる私を作りすぎて、今更本当の私がわからない。だからといって、本当の私を知ってほしいとも思えない。幻滅されてしまいそうで怖い。今まで私が築き上げてきたものが一瞬で崩れて、存在自体を否定されてしまうような気がして。

どれだけ慕われ、愛されていても、居なくなって一ヶ月したら記憶は薄れて行き、一年もしたらみんな忘れちゃうでしょ。

私 そんなことない。

あなた ただその瞬間だけを生きる人は簡単に記憶から消えていく。私のように。

私 そんな、私はずっとあなたのこと覚えてるよ。忘れそうになったら…呪ってくれてもいい。

あなた そうね。

SE 踏切

あなた もう時間ね。

私 もっと一緒にいたい。

あなた あんまり遅くなると病院から抜け出していることがバレてしまう。今日は帰りましょう。

さあ。(私の手を取る)

「私」だけ踏切を越える

私 　　また明日ここの踏切で

五場

SE 波の音

ME 櫻花七日

海に入る

私 　　冷たいっ。

あなた 　夜の海だからね。冷たいに決まってるよ。

私 　　そう言うあなたは全然冷たそうにみえないね。

あなた 　そう？十分冷たい。

私 　　ホントに？それなら、えいっ！

あなた 　わっ

　　あなたも水をかけ返す

私 　　私、こんなにはしゃいだの久しぶり！ねえ？

あなた 　ん？？

私 　　あなたとこれからもずっとずっと2人で一緒に同じ景色を見たい。

あなた 　そうね…

私 　　あなたと一緒になら怖くない。

「あなた」が自販機へ向かおうとする。

私 　　ちょっと待って。今日は私が。

あなた 　ありがとう。

「私」が自販機へ向かう

SE 自販機 (ボタン) A

SE 自販機 (ボタン) B

SE 自販機 (缶が落ちる音)

「あなた」がベンチで「私」を待っている

あなた 生きてる間にあなたと出会えていたら良かったのに。

「私」が「あなた」に缶ジュースを渡す

あなた ありがとう。

私 では、かんぱーい。

あなた 乾杯。

SE 缶を開ける音 A

SE 缶を開ける音 B

私 わあっ！

炭酸が飛び散る

私 もう、最悪！ちよーべたべた。濡れてない？

あなた ええ、大丈夫。

私 よかったあ。

あなた あなたの方こそ大丈夫？それ学校の制服なんじゃ…。

私 ああ、うん、まあ大丈夫。多分もう行くことないと思うし。

あなた そうなの？

私 うん。

私 人ってね、無自覚に呪いの言葉をかけると思うの。

あなた 呪いの言葉？

ME 呪いの言葉

私 そう。私は精一杯頑張っているのに、頑張つて！とか期待してるね！とか言われると今の頑張りを否定された気になっちゃって。言った人からしたら励ましの言葉かもしれないけど、私にとっては違う。もつともつと頑張らなきゃって。結局頑張れなくて逃げてききちゃった。こんな風に思っちゃうなんて変だよね。なんか私普通の人は少し違うみたいなんだ。それになんかもう疲れちゃって。私なんかいないほうが良かったんだろうなって。私、自分で決めたことから逃げてばかり。

あなた 逃げればいいよ、きつと。気になったものだけに触れてみればいい。

私 本当は学校に行きたい。この制服を着て。でも怖い。でもね。あなたに言われると、ホントに逃げてもいい気がしてきちゃう。

あなた その場から居なくなりたい、今日が始まって欲しくないと思っても、それでも月は沈んで行くでしょう？でも、星は私たちに見えていなくても、強い光を放ち続けている。

自らの力でずっと輝き続けているの。だからあなたは大丈夫。生きること辛いけれど、死んでしまう方が遥かに辛いからね。

SE 踏切

あなた ほらもうすぐ月も、私が居た記憶も全て消えてしまう。そろそろ帰りましようか。

私 え？どういうこと？

あなた 最初に星がハッキリと見える条件を教えたでしょ？

私 うん。空気が澄んでいて、近くに灯りがいないこと。

あなた もう一つあってね。月がないから星が綺麗に見えるの。月の明るさは星を隠してしまう。私がこのまま一緒に居たらきつとあなたの輝きを消してしまう。(あなたはひとりでも十分輝ける)

私 そんなことないよ。だって私はあなたが居なくなったらこれからどうすればいいのかわからない。

あなた 最後に、これだけは約束して。これからもあなたが綺麗だと思う景色をたくさん見て。夜だけじゃなく、いろんな景色を。

☹️ それでも一人は嫌だよ

私 それでも独りは嫌だよ。あなたと一緒にいたい。それにまだあなたのこと何も知らない。どんなものが好きで、誕生日がいつで…名前だって知らないんだよ？

9

あなた 私とあなたが出会えたように、誰かがあなたのことを見つけてくれる。この先色々な人と出会って、たくさん年月をいつか光が消えてしまうその日まで歩んで行くの。

私 他の誰かなんて考えたくない。

あなたと見る海が好き。

あなたと見る星が好き。

もつともつとたくさん見たことがない世界をあなたと。私だってあなたに見せたい景色があるんだよ。空気が澄んでいて、ホテルがたくさん飛んでる場所があるの。その後二人で、色々な場所を旅してそこでしか見れない光を見るの。この世界の美しいものを全部私たちのものにしてう！

あなた (カルピスを飲む) 甘いねえ。

私 ねえ、またいつか会える？

あなた ええ。きつと会えるわ。

私 きつと？

あなた きつと。

私 忘れないからね、また明日。ここの踏み切りで！またね。

あなた (微笑む) さようなら。

私 がはける動きに合わせて暗くする

六場

SE 雑踏音

友達 今日はどこ行くの？
私 学校の屋上行こ！！
友達 いいけど何するの？
私 天体観測

照明切り替え

友達 きれいーあれは、夏の大三角か。
私 ほんとだ。夏の大三角は夏だけじゃなくて、一年を通して観察できるんだよ。
友達 さすがー星好きって言ってたもんね。なんで星好きなの？
私 ーなんでだろ。あ、私前に入院してたって言ったじゃん？
友達 言ってたね。
私 その人に会ったのがきつかけかな。海の夜空を初めて見せてくれた人。
友達 なんかロマンチックー
私 その人と約束したの。
友達 約束？

SE 桜花七日

私 うん。色々な人と出会って、いつか光が消えてしまうその日まで綺麗だと思っ景色をたくさん見てって。
友達 ふうん。
私 もう会えなくなっちゃったけど。でも、いつかまた会えるって信じてる。
友達 そっか。会えるといいね。
私 だよ。よし、そろそろ帰るか。
友達 そうだね。
私 じゃ私寄り道して帰るからまたね。
友達 夜遅いから気をつけなよ。また学校で。

七場

「私」何も変わらない半年前の場所に懐かしさを感じながら歩く
一人で二缶飲み物を買う。

SE 自販機 (ボタン) A
SE 自販機 (ボタン) B

SE 自販機 (缶が落ちる音)

SE 缶を開ける音 A

座って一人で飲む。

SE 踏切

踏切の音と同時にフェードで照明がつく

私

なつかしいなもう半年か。あれから私はあなたが居ない 景色をたくさん見たんだよ。でも、大好きだった星が綺麗に見えなくて、ただずっと見えるのは月だけだった。私があの踏切を渡れなかったのは、あなたを待っていたからなのかもしれない。私はあなたとだからあの踏切を渡った。

SE カノーパス

私

あなたともっと話せると思ったから渡った。声をかけてくれたあの瞬間あなたは月のように輝いていて自分を委ねてもいいと思えた。最初からわかったの出会ったときにはもうあなたがこの世界に居なかったってこと。でも約束してくれたから。あなたと過ごしたあの時を忘れることなんてできないから。だからね、私は、あなたを待っている。また明日ここの踏切で。

SE 踏切の音

SE 波の音

踏切の音のフェードアウトと同時に照明もフェードアウト

